

洋野町誕生10周年記念事業「洋野町子ども議会」会議録（第1号）

招集年月日	平成28年3月22日								
開会日時 開議	開会	平成28年3月22日	10時00分	議長	下田大輔				
	開議	平成28年3月22日	10時02分	議長	下田大輔				
閉会日時	平成28年3月22日 12時12分			副議長	鈴木優				
会議場所	洋野町議会議場								
出席状況 (定数22名) 出席議員 21名 欠席議員 1名 凡例 ○ 出席 ▲ 欠席 × 無届欠席 △ 遅刻 公 公務出張 夕 途中退場	議席	氏名		出席状況	議席	氏名		出席状況	
	1	上小路 風太		○	12	尾前 亮太郎		○	
	2	豊島 遼太郎		○	13	谷地中 凜生		○	
	3	福島 真依		○	14	尾前 杏音		○	
	4	中野 胡琉		○	15	番沢 希		○	
	5	船渡 茜		○	16	長根 充貴		○	
	6	粒来 桃子		○	17	大柳 勇登		○	
	7	佐々木 栞葵		○	18	佐藤 綾乃		○	
	8	池田 和月		○	19	小坂 七海		○	
	9	林郷 李瑠		▲	20	太内田 妃夏		○	
	10	川原 彩愛		○	21	鈴木 優		○	
	11	工藤 開成		○	22	下田 大輔		○	
職務のため会議に出席した者の職・氏名	事務局長	村山 政行	局長補佐	笠月 恵美子	主任	伊藤 友和			
説明のため会議に出席した者の職・氏名	職	氏名		職	氏名		職	氏名	
	町長	水上 信宏		副町長	日當 博治		副町長	下川原 康文	
	議長	岡本 正善		総務課長	野田 清旨		防災推進室長	米内 信博	
	企画課長	林 剛敏		特定政策推進室長	掛端 良二		税務課長	佐々木 安武	
	町民生活課長	滝川 幸弘		福祉課長	城下 道幸		健康増進課長	村上 昇司	
	水産商工課長	大道 一男		中野支所長	中里 利則		介護ケア課長	高屋敷 正博	
	種市病院事務長	長坂 敦夫		会計管理者	奥山 清一		水道事業所長	梨子 和士	
	下水道対策監	梶谷 信一		地域振興課長	関口 邦雄		総合ケア課長	瀧澤 博	
	農林課長	関向 一男		建設課長	山道 悦男		教育長	麦澤 正剛	
	教育委員長	岡本 敏幸		教育委員	大粒来 清志		教育委員	中野 洋子	
	総務学校課長	昆 勝雄		生涯学習課長	梅澤 幸生		国体推進室長	日影 英昭	
	大野事務所長	関向 義三		農委事務所長	関向 一男		選管書記長	野田 清旨	
	監査事務所長	村山 政行							
	会議録署名議員	1番 上小路 風太		2番 豊島 遼太郎		3番 福島 真依			
議事日程	別紙第1のとおり								
会議の経過	別紙第2のとおり								

別紙第 1

洋野町誕生 10 周年記念事業「洋野町子ども議会」議事日程

平成 28 年 3 月 22 日 (火) 午前 10 時開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 一般質問

- (1) 上小路 風 太 議員
- (2) 中 野 胡 琉 議員
- (3) 川 原 彩 愛 議員
- (4) 工 藤 開 成 議員
- (5) 番 沢 希 議員
- (6) 大 柳 勇 登 議員
- (7) 佐 藤 綾 乃 議員
- (8) 鈴 木 優 議員
- (9) 豊 島 遼太郎 議員
- (10) 池 田 和 月 議員
- (11) 尾 前 杏 音 議員
- (12) 粒 来 桃 子 議員
- (13) 佐々木 栞 葵 議員
- (14) 尾 前 亮太郎 議員
- (15) 長 根 充 貴 議員
- (16) 小 坂 七 海 議員
- (17) 下 田 大 輔 議員
- (18) 福 島 真 依 議員
- (19) 船 渡 茜 議員
- (20) 谷地中 凜 生 議員
- (21) 太内田 妃 夏 議員

日程第 4 議案第 1 号 洋野町いじめ防止基本方針

別紙第2 会議の経過

◎開 会

○議長 議場内の皆さま、おはようございます。

本日の議長を務めさせていただきます、種市高校1年の下田大輔です。よろしく願いいたします。

洋野町子ども議会が開会されるにあたり、ひとこと、ごあいさつを申し上げます。

子ども議員の皆さんには、町内の小・中学校及び高等学校を代表して、ご出席をいただき、大変ありがとうございました。

また、水上町長さんをはじめ、執行者の皆さん、並びに、岡本町議会議長さんにも、お忙しい中、ご出席をいただき、心から感謝いたします。

さて、この子ども議会は、洋野町誕生10周年を記念し、次の世代を担う私たちが、洋野町の将来について考え、質問することで、町づくりへの関心と、それに参画する意識を高めることを主な目的として、開催されるものであります。

子ども議員の皆さんには、この目的に則し、町の行政のさまざまな分野にわたり、建設的な質問をされるようお願いいたします。

また、水上町長さんをはじめ、執行者の皆さんには、各種の事務・事業の確実な実施に向け、前向きな答弁をされますよう、お願い申し上げ、開会にあたってのごあいさつといたします。

ただいまから、洋野町誕生10周年記念事業、洋野町子ども議会を開きます。

(このとき10時02分)

◎開 議

○議長 これから、本日の会議を開きます。

(このとき10時02分)

○議長 本日の議事日程は、あらかじめお手元にお配りしたとおりであります。

執行者側を代表いたしまして、水上町長からごあいさつをいただきます。

○町長(水上信宏君) 議長。

○議長 町長。

<町長 水上信宏君 登壇>

○町長(水上信宏君) 洋野町子ども議員の皆さん、改めまして、おはようございます。

洋野町長の水上信宏でございます。

本日は、洋野町誕生10周年記念事業として、洋野町子ども議会が開催されるということで各小中学校、高校を代表する21名の子ども議員の皆さんにご参加いただきましたことを大変嬉しく、また心から感謝申し上げます。

この場から、子ども議員の皆さんの凛々しいお姿を拝見しますと、これから始まる子ども議会に対する意欲が伝わって参ります。

皆さんが、今座っておりますこの議場は、日頃、町議会議員の皆さんと私達町の職員で、町民の皆さんが、洋野町に住んで良かった、住み続けたいと実感していただけるように、様々な問題や課題について議論するととても大事な場となっています。

私達の洋野町は、平成18年に旧種市町と旧大野村が合併して誕生して10年目を迎えました。洋野町の未来を担い、そして支えていかれる皆さんが、町議会の運営を直に体験

していただくことは、大変有意義で貴重な体験となると思っています。

これから皆さんには、各学校を代表する議員としてこの演壇に立っていただいて質問をしていただきますが、皆さんからいただいておりますご質問は、どの質問も大人の目線からは発見できないような素晴らしい内容で、大変感心しております。

皆さんの質問には、私を含め、町の幹部職員が皆さんの質問に精一杯耳を傾けて、また答弁にあたっては誠心誠意答弁させていただきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、本日の子ども議会の開催にあたりまして、大変ご尽力をいただきました各小・中学校、高校校長先生をはじめとする先生方、さらには保護者の皆様方にご協力をいただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも町政運営に対し、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

<町長 水上信宏君 降壇>

○議長 ありがとうございました。

次に、町議会を代表いたしまして、岡本議長からごあいさつをいただきます。

○町議会議長（岡本正善君） 議長。

○議長 町議会議長。

<町議会議長 岡本正善君 登壇>

○町議会議長（岡本正善君） 議場内のみなさん、改めましておはようございます。洋野町議会議長の岡本正善です。

洋野町子ども議会の開催にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

さて今日は、町内の小・中学校、高等学校から、合わせて21人の子ども議員の皆さんが出席し、洋野町のさまざまな分野での将来への夢や希望を語り、町に対する身近な疑問などについて質問するという一方で、私も、日ごろ皆さんが感じていることを直接聞くことができる良い機会と思い、この日をとっても楽しみにしていました。

今日の子どもの議会の会場となった、この議場では、今月11日まで、町議会3月定例会が8日間に亘って開催され、予算案など、町の重要な事務・事業に係る数多くの議案について、活発な議論が交わされました。

でも、今日の主役は、町議会議員ではなく、子ども議員の皆さんです。大人の議員に負けないように、洋野町の発展に結びつく、有意義な質問が行われることを大いに期待します。

もうすぐ新たな学年がスタートする皆さんには、これからの学校生活で、また、社会人になってからも、今日の経験を活かし、自分のことだけでなく、友人や家族、そして社会のことなど、物事を広い視野で考えることのできる人間になってほしいと願っています。

結びに、子ども議員の皆さん、そして傍聴席の保護者の方々並びに、学校関係者の方々の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、私のご挨拶といたします。

<町議会議長 岡本正善君 降壇>

○議長 ありがとうございました。

これから、本日の議事日程に入ります。

◎日程第1 会議録署名議員の指名

○議長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、1番上小路風太君、2番豊島遼太朗君、3番福島真依さんを、議長から指名します。

◎日程第2 会期の決定

○議長 日程第2、会期の決定の件を議題とします。

今回の子ども議会の会期は、本日1日間としたいと思います。

これに、ご異議ありませんか。

<「異議なし」と発言する人あり>

○議長 異議なしと認めます。

したがって、会期は、本日1日間と決定されました。

◎日程第3 一般質問

○議長 日程第3、一般質問を行います。

質問は、通告に従い、各分野ごとに行います。

初めに、産業についての質問を行います。産業について質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<1番 上小路風太君、4番 中野胡琉君、10番 川原彩愛さん、11番 工藤開成君 登壇>

○議長 最初に、1番、上小路風太君の発言を許します。

○1番(上小路風太君) 議長。

○議長 1番、上小路議員。

○1番(上小路風太君) ウニークをピーアールするための方策について、ご質問いたします。

洋野町の復興シンボルである、ひろの水産会館ウニークがありますが、ウニークで具体的に何が行われているのかわからない人もいます。ウニークではどういうことが行われているかなどを、学校やその他の場所で説明する機会があればウニークへの関心も高くなり、ウニークの来館者も増えると思うのですが、今後、ウニークをピーアールする方策について町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、4番、中野胡琉君の発言を許します。

○4番(中野胡琉君) 議長。

○議長 4番、中野議員。

○4番(中野胡琉君) 洋野町の酪農産業の知名度をあげる取り組みについて、ご質問いたします。

私たちは給食で、洋野町で生産された牛乳を飲んだりヨーグルトを食べたりしています。これらの乳製品は洋野町だけでなく八戸市のスーパーでも売っているのを見たことがあります。学級でも酪農をしている家が多く、洋野町大野地区では昔から酪農が主な産業だと学習しました。そんな洋野町の酪農産業の知名度をさらに上げるために、町ではどのような取り組みを予定しているのか、水上町長の考えをお聞かせください。

○議長 次に、10番、川原彩愛さんの発言を許します。

○10番(川原彩愛君) 議長。

○議長 10番、川原議員。

○10番(川原彩愛君) 新しく農業を始める人への支援について、ご質問いたします。

洋野町では、高齢化のため農業を続けるのが難しく、農業をやめてしまう人が年々

増えています。このままでは、昔からの農業文化がなくなってしまうのではないかと心配しています。そこで、昔からの農業文化を残すためにも、新しく農業を始める人が、農業文化を残したいと思うような支援が必要だと思います。今現在、町ではどのような支援を行っているのか、そして今後どのような支援が必要なのか、水上町長のお考えをお聞かせください。

○議長 次に、11番、工藤開成君の発言を許します。

○11番（工藤開成君） 議長。

○議長 11番、工藤議員。

○11番（工藤開成君） 洋野町の特産品を町外へ広める方策について、ご質問いたします。

洋野町には種市地区、大野地区それぞれに産業があり、ウニやホヤ、大野木工など町外に誇れる特産品がたくさんあります。しかしながら、岩手県民であってもこれらの特産品について知らない人がいると思います。そこで、洋野町のすばらしい特産品を宣伝し広めていくための方策について、町の考えをお聞かせください。

<1番 上小路風太君、4番 中野胡琉君、10番 川原彩愛さん、11番 工藤開成君 降壇>

○議長 以上、産業についての、4名の質問に対する答弁を求めます。

○町長（水上信宏君） 議長。

○議長 町長。

<町長 水上信宏君 登壇>

○町長（水上信宏君） 4名の議員の皆さん、素晴らしい立派な質問大変ありがとうございます。

先ず、上小路議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、ウニークをPRするための方策についてですが、ひろの水産会館ウニークは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により全壊した種市ふるさと物産館などの跡地に、本町の1日も早い復興の願いを込めて平成26年3月23日にオープンしました。

施設の外観は、白い客船が太平洋に漕ぎ出す姿をイメージしたデザインとなっており、海とともに生きる洋野町のシンボルとして建設されました。

ウニークという愛称は、公募により応募していただいた68点の中から選ばれていて、日本一の品質と自慢できる本町のウニや、南部もぐりを養成する日本で唯一の海洋開発科を開設している種市高校など、洋野町にしかないものを町内外の人にピーアールし、皆さんから愛される施設となるように願って決定しました。

施設内にはウニやアワビ、ホヤなどの新鮮な海産物を扱う直売所や町内の特産品を展示販売している物産コーナーなどがあり、開館から約2年の今年2月27日に来館者10万人を達成したところです。

これまでも、多くの方々から利用していただくため、館内商品の特売や写真展などの各種イベントの開催や、新たな加工品の試食会や料理教室のほか、夏にはウニの殻むき体験などを行っています。

また、洋野町の物産を全国の人に知ってもらうために、水産会館を取扱い窓口として、町にふるさと納税を納めていただいた方へ本町の物産を返礼品として贈っています。

今後の本町の取組みですが、引続き漁協など各種団体と連携し、多彩なイベントを開催しながら、利用者の増加に繋げていくとともに、チラシを町内の各家に配付したり、町のホームページに掲載するほか、インターネットを活用した情報発信などによるピーアールについても力を入れていきたいと考えております。

次に、中野議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、町の酪農産業の知名度をあげる取り組みについてですが、酪農は町の重要な産業です。現在、町内では、牛の乳を搾っている酪農家は31件で、乳牛は3,100頭飼育されており、県内でも有数の酪農地帯となっています。

町では、酪農家の皆さんを応援するために、いろいろな取り組みを行っています。それは、共進会の開催や、消費者の皆さんに安全・安心なものを提供するため、牛乳の品質を管理する取り組みへの支援、牛が病気にならないようにするための予防注射への助成などです。そのほか、現在、牛のふんで肥料を作るための堆肥センターの整備を進めています。

議員ご質問のとおり、町内で生産された牛乳の一部は、株式会社おおのミルク工房で加工されており、牛乳やヨーグルトなどが洋野町と久慈市で学校給食に取り入れられているほか、乳製品は、洋野町だけではなく近隣の久慈市や階上町、八戸市、盛岡市、遠くは東京都や静岡県、沖縄県などでも販売されたり、県内の道の駅や高速道路のサービスエリアでは、ソフトクリームとして販売されているなど、洋野町特産品のひとつとして、多くの消費者のみなさんに愛されています。

また、洋野町・久慈市・野田村・普代村の酪農家のお母さん方で組織する、ミルクレディーズでは、酪農のイメージアップや地元産乳製品の知名度アップのために、各小学校で、酪農出前授業を行っているほか、酪農とは違う仕事をしている漁業者や町外の酪農家との交流、マスコミを通じた活動紹介などを行っていて、町や県でもその活動を応援しています。

これからも、酪農家の皆さんを応援する取り組みを継続しながら、洋野町の酪農がさらに発展するよう、株式会社おおのミルク工房が行う新商品開発やインターネット販売の取り組みと併せ、町でもホームページで紹介するなど、酪農家の、ゆめを込めた、ゆめ牛乳をはじめとする乳製品を広くPRすることにより、町の酪農産業の知名度を高めていきたいと思っております。皆さんも何処かに行っても、おおのミルク工房の製品を飲んでいただきたいと思っております。

次に、川原議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の、新しく農業を始める人への支援についてであります。現在の洋野町での農業の状況は、農業をしている方々の高齢化や後継者不足、使われなくなった農地の増加、米などの価格が安くなるなど、厳しい状況が続いています。

特にも、川原議員からご意見のありました、新たに農業を始める人の確保と支援については、最も重要な問題だと考えています。

このような問題を解決するため、洋野町では、若い方が農業を始め、意欲を持って取り組み、長く農業を続けていただくため、給付金を支給する、いわてニューファーマー支援事業と、新たに農業を始めた人に、農業技術を身につけていただき、経営を安定していただくため、奨励金を支給する、洋野町新規就農者支援対策事業を支援対策として実施しており、これまでに7名の方々がこの制度を使い、町の主要品目である、ほうれんそう、しいたけの栽培に取り組み、現在も農業を続けられ日々頑張っています。

また、平成28年度から、農家の後継者に対し奨励金を支給する、洋野町農林業後継者支援対策事業を新たに実施する予定としております。

このような事業を行うことにより、新たに農業を始める人が安心して農業の生産に取組むことにより、農業文化を残したいという思いにつながっていくものと考えています。

次に、工藤議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、洋野町の特産品を町外へ広める方策についてですが、本町では、海と高原のまきばをキャッチフレーズとしていますが、世界三大漁場のひとつとなっている三陸の海に面していることや、農産地域となっていることから、その海や山の恩恵により自慢の農林水産物が数多くあります。

特産品として皆さんご存知の水産物のウニやアワビですが、その中でも、ウニの水揚げ量は本州では1番となっていますし、品質も日本一と自慢できる特産品となっています。

また、町内外を問わず人気のある、天然ホヤや秋サケなど、太平洋に育まれた海の幸に恵まれています。

農林産物については、酪農、養鶏等の畜産が盛んで、学校給食で飲まれている、おおのゆめ牛乳はその代表的なもので、その他、赤鶏ラーメンや、日本一の乾しいたけ、雨よけハウレンソウなど、多くの誇れる特産品があります。

さらに、使う人にやさしい大野木工は、職人が丹精を込めて作っており、町内の保育園や学校などで使用していますが、現在では、町外からの注文も受け、全国各地において使用していただいております。

この全国に誇れる特産品を、多くの人に知ってもらうため、生産者や販売事業者などに販売イベント情報の提供を行ったり、各種イベントの機会には、盛岡や東京など町外にPR販売を実施しています。

また、たねいちウニまつりや農業祭などのイベントでの販売や、友好の町絆協定を結んだ北海道浦幌町でのPR販売を計画するなど、洋野町と洋野町の特産品を知ってもらい、消費拡大を図るため生産者や事業者、町が協力して取り組んでいます。

最近では、観光スポットの情報などを広く発信し、観光をきっかけとした仕事づくりや特産品などの販売によって、地域の活性化を図ることが注目されています。

このような中、本町では、これまでの事業を振り返って、国内だけではなく海外などの新しい可能性についても目を向け、その取組みを始めています。

以上、上小路議員、中野議員、川原議員、工藤議員からのご質問に対する答弁といたします。

<町長 水上信宏君 降壇>

○議長 答弁が終わりました。

これで、産業についての質問を終わります。

次に、環境についての質問を行います。環境について質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<15番 番沢希君、17番 大柳勇登君、18番 佐藤綾乃さん、21番 鈴木優君 登壇>

○議長 最初に、15番、番沢希君の発言を許します。

○15番(番沢希君) 議長。

○議長 15番、番沢議員。

○15番(番沢希君) 森林の減少について、ご質問いたします。

今、洋野町では、三陸沿岸道路を作っています。ただ、その道路を作るために、多くの木を切って、洋野町の自然を減らしていると思います。私は、勉強で、森林は海のもとだちということ学びました。森林や木を守れば、海もきれいになっていくということです。道路ができることで、車での移動は楽になるとは思いますが、木を切って自然が減ったことについて、町では今後どのような取り組みをするのか、お聞かせください。

○議長 次に、17番、大柳勇登君の発言を許します。

○17番（大柳勇登君） 議長。

○議長 17番、大柳議員。

○17番（大柳勇登君） 大気汚染への取り組みについて、ご質問いたします。

大気汚染は、自動車の排気ガスや工場の煙突から出るけむりが原因であるということを知りました。洋野町内には大きな工場はありませんが、自動車を1台以上持っている家庭は多くみかけます。排気ガスは、においが強いだけでなく、健康にも影響があると思います。自動車を減らすことは難しいと思いますが、大気汚染を防ぐための町の取り組みについて、お聞かせください。

○議長 次に、18番、佐藤綾乃さんの発言を許します。

○18番（佐藤綾乃君） 議長。

○議長 18番、佐藤議員。

○18番（佐藤綾乃君） 地球温暖化と森林破壊について、ご質問いたします。

今、洋野町内を歩いていると太陽光パネルを多くみかけます。太陽光パネルを設置することで地球温暖化の対策につながるため、とても良い取り組みだと思います。しかし、今まであった森がなくなり、太陽光パネルが設置された見慣れない景色をみて、地球温暖化を改善するための取り組みが森林破壊というような別な問題を生み出してしまっていると思います。このことについて町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、21番、鈴木優君の発言を許します。

○21番（鈴木優君） 議長。

○議長 21番、鈴木議員。

○21番（鈴木優君） 環境美化活動について、ご質問いたします。

洋野町では、いわて国体開催にむけて、会場の環境や河川・道路の美化、宿舎・飲料水の衛生対策をとっていることを知りました。このような対策は国体参加者が気持ちよく過ごせるだけでなく、洋野町の森や海がきれいになることにつながり、より住みやすい町になると思います。私は、環境美化活動を一時的なものにするのではなく、今後も継続していくことが必要だと思いますが、町長の考えをお聞かせください。

<15番 番沢希君、17番 大柳勇登君、18番 佐藤綾乃さん、21番 鈴木優君 降壇>

○議長 以上、環境についての、4名の質問に対する答弁を求めます。

○町長（水上信宏君） 議長。

○議長 町長。

<町長 水上信宏君 登壇>

○町長（水上信宏君） 4名の議員の皆さん、それぞれの大変大切な質問、提言をいただきありがとうございます。

番沢議員のご質問に、まずお答えさせていただきます。

はじめに、本町の総面積についてお話をしますと、総面積は、3万292ヘクタールで、その約77%、2万3,221ヘクタールが森林となっています。

そこで、ご質問の、森林の減少についてですが、現在種市地区では、三陸沿岸道路の整備のため、山の木が伐採されています。

三陸沿岸道路は、東日本大震災後、津波などの大災害が発生した際などには避難道路、また、緊急輸送道路としても利用され、地域の暮らしと命を守る大変重要な道路となるため、必要最小限度で木を伐採して、道路を整備しているものです。

森林は、たくさんの動植物のすみかとなって生態系を維持する役割、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を吸収し酸素を供給する役割、雨による土砂災害などを防止する役割、また、海へ栄養を供給する役割、木材を生産する役割など、様々な役割を果たしており、森林を守っていくことは、非常に重要なことです。

このことから町では、豊かな海とそれを支える森林とのつながりの大切さをしっかりと継承していくことを目的として、ウニの森づくり植樹祭により山に木を植える活動を毎年実施しているほか、今年は、県内から多数の参加者を迎え、いわての森林の感謝祭という大規模な植樹祭を開催する予定です。

さらに、古い木や弱っている木を伐採し、強い木を育てる間伐への補助のほか、伐採した後に植林するための補助等も行っているところです。

今後においても、植樹祭や、間伐等への補助を行い、森林を守っていく取組みを実施していきます。

次に、大柳議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、大気汚染への取組みについてですが、大気汚染とは、自動車や工場などから出る煙や排気ガスなどの有害物質により、人間の健康に害を及ぼすことです。

町では工場などが建設されるとき、空気や水を汚すような公害を出さないよう工場と町で公害防止協定という約束を交わし、大気や水質を汚さないよう取り組んでいます。

また議員のお話のとおり、洋野町には煙を出す工場などは少ないものの、自動車は一家に1台から一人1台へとその台数は増えています。

町では、大気汚染のほか地球温暖化対策のため、洋野町地球温暖化対策実行計画という取組みの目標を作り、温暖化対策のためのいろいろな省エネに積極的に取り組んでいます。

その中には役場で使用している自動車の省エネ化やエコドライブなどの目標もあり、役場の公用車45台のうち8台をハイブリッドカーに更新し、目標に向け努力しています。

ハイブリッドカーはエンジンと電気の両方で走る車で、普通の車に比べ、排気ガスと温室効果ガスの排出量が少ない車です。

今後も、ハイブリッドカーを少しずつ増やしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひ申し上げます。エンジンは燃料でかかりますし、それから電気でモーターを動かして車が走っております。それを併用するのがハイブリッドカーです。

次に、佐藤議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、地球温暖化と森林破壊についてですが、議員が感じているとおり東日本大震災以降、省エネや温暖化対策の取組みとして、再生可能エネルギー活用のための太陽光パネルの設置が町内でも行われています。

現在、洋野町内では、メガソーラーと呼ばれる大規模な太陽光施設が、4箇所で開催されているほか4箇所で開催中又は計画中となっています。

これらの8箇所のメガソーラー整備のために伐採された森林の面積は62万3,688平方メートルで、洋野町の森林面積の0.29%にあたります。

例えてお話をしますと、町の森林面積をバレーボールコートに例えれば、その中に新聞紙を1枚広げた程度の広さということになりますが、森林を開発する場合、その対象面積の25%、4分の1は残地森林として林地を残すことが法律で定められています。

以上のことなどから、現段階では森林破壊とは捉えていませんが、ご質問のあったとおり森林破壊を招かないよう自然開発にはこれからも注意しながら取り組んでいきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

次に、鈴木議員のご質問にお答えします。

ご質問の、環境美化活動についてですが、今年行われる希望郷いわて国体に向けて、本町で開催される軟式野球、サーフィン、パークゴルフに参加するため全国から訪れられる皆さんが気持ちよく過ごすことができるように、環境美化や衛生対策等を充分準備して対応することとしています。

町ではこれまでも、洋野町総合計画という町の計画の中で、環境美化活動の推進などを盛り込み、一斉清掃や花いっぱい運動、ポイ捨てや不法投棄などのない美しい町づくりに取り組んできました。

議員ご質問のとおり、国体の会場となるからだけではなく、町の美しい環境を今の子ども達の代に引き継いでいくため、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

以上、番沢議員、大柳議員、佐藤議員、鈴木議員からのご質問に対する答弁とさせていただきます。

<町長 水上信宏君 降壇>

○議長 答弁が終わりました。

これで、環境についての質問を終わります。

次に、福祉についての質問を行います。福祉について質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<2番 豊島遼太郎君、8番 池田和月君、14番 尾前杏音さん 登壇>

○議長 最初に、2番、豊島遼太郎君の発言を許します。

○2番（豊島遼太郎君） 議長。

○議長 2番、豊島議員。

○2番（豊島遼太郎君） 少子化対策について、ご質問いたします。

近年、全国的に少子高齢化が進み、ここ洋野町でも少子高齢化が進んでいると思います。

私が通う種市中学校でも、昨年度全校生徒が200人を切り、子どもが少なくなってきたことを実感しています。高齢者へのサービスなどは、町としても行っていると思うのですが、少子化対策については、どのようなことを行っているのか、あまり目に見えない現状だと思っています。

そこで、少子化対策について町の取組みをお聞かせください。

○議長 次に、8番、池田和月君の発言を許します。

○8番（池田和月君） 議長。

○議長 8番、池田議員。

○8番（池田和月君） バリアフリーの推進について、ご質問いたします。

近年、全国的に高齢者が増え、また、さまざまな障がいを持った人たちが生活しています。しかし、バリアフリーがほどこされていない場所が多くあり、いろいろな場面で生活に支障を来していると感じています。

そこで、現在バリアフリーがほどこされている公共施設はどのくらいあるのか、また、今後もスロープや点字などの設備を整えていく必要があると思いますが、これについて町長の考えをお聞かせください。

○議長 次に、14番、尾前杏音さんの発言を許します。

○14番（尾前杏音君） 議長。

○議長 14番、尾前議員。

○14番（尾前杏音君） 福祉サービスの向上について、ご質問いたします。

近年、全国的に高齢化が進み、洋野町においても高齢化が問題となっています。洋野町の人口のうち、65歳以上の人の割合は約35%であると聞いています。町でも高齢者福祉などの対策が行われていると思いますが、介護の人材不足など、様々な問題があると思います。

そこで、福祉サービスの向上のためにも、介護士の育成など、今後必要と思われる取り組みについて、町の考えをお聞かせください。

<2番 豊島遼太郎君、8番 池田和月君、14番 尾前杏音さん 降壇>

○議長 以上、福祉についての、3名の質問に対する答弁を求めます。

○町長（水上信宏君） 議長。

○議長 町長。

<町長 水上信宏君 登壇>

○町長（水上信宏君） 大変、今色々な問題のある福祉について、3名の議員の皆さんからご質問いただき、ありがとうございます。

まず、豊島議員のご質問にお答え申し述べさせていただきます。

ご質問の、少子化対策についてですが、少子化の要因としては、結婚したくても出会いがない、子どもの数が年々減ってきている、若者が町外に出ていくなどが要因として考えられています。

町では、結婚したいけれど出会いがない方には、ひろの出会い支援事業を実施するなど出会いの場を通じて結婚できるような取り組みをしたり、子どもを安心して産んでもらい、子育てがしやすくなるよう、子どもが生まれたときには、すこやか育児祝金を支給したり、保育園を利用していて兄弟が多くいる家庭に対しては、保育料の負担を減らしたり、小学生が放課後に安全にすごせるよう放課後子ども教室や放課後児童クラブを開催したり、中学生までの医療費を無料化するなど様々な対策をしています。

さらに、来年度からは、子育てへの負担を軽くするために、すこやか育児祝金の支給額を増やしたり、3人目からの保育料を完全無料化したりするなど、子育てにお金がかからないようにするとともに、子どもを持ちたい若者が住んでくれる住宅を作るなど、少子化対策をさらに強化することとし、若い人が町に住み続け、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを目指しています。

このような対策を長期的に取り組むことで、今後成果が現れるものと考えていますので、よろしくをお願いします。

次に、池田議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の、バリアフリーの推進についてですが、町で管理し、誰もが利用できる公共施設は103施設ほどありますが、その中で、半分以上に当たる57施設がバリアフリー化されています。

バリアフリーの例としては、段差解消のためのスロープ、手すり、車いす利用者のためのトイレ、障害者優先の駐車スペースの設置などです。

岩手県では、ひとにやさしいまちづくり条例で、病院、老人ホーム、学校や役場などの特定公共施設と呼ばれる建物で、一定の基準を超える面積の建物を新しく建てる時などは、全てバリアフリーとなっていなければならないことと規定しています。そのため、これから新しく建てたり大規模改修したりする際には、全てがバリアフリー化となるものです。

また、古い建物の中には、バリアフリーとなっていない建物も多くありますが、すぐに全部をバリアフリー化するには多額の費用がかかるため、町では、建物の建替や大規

模修繕をした際に、バリアフリー化する方針としています。

このようなことから、少し時間はかかりますが、将来的には、全ての公共施設はバリアフリー化されるものと考えていますので、よろしくをお願いします。

次に、尾前杏音議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の、福祉サービスの向上のため、介護士の育成など、今後必要と思われる取り組みについてですが、本町の将来人口を見通した人口ビジョンによると、平成27年で35%だった65歳以上の高齢者の割合が、5年後の平成32年においては、およそ40%となると見込んでおります。

その反面、町内で働く人の数は、平成27年の8,931人から平成32年では7,729人となり、1,200人程少なくなるものと見込まれています。

このような中、介護が必要な高齢者は年々増えてくるものの、高齢者を支える人が年々少なくなることが予測されるため、その解決を急がなければならない状況となっています。

そのため、来年度から、介護の仕事を希望する若い人達に対し、介護の仕事について理解してもらう研修や、介護の仕事をしたことがない人が研修を受講する時の負担軽減を図ったり、介護の仕事から離れた人が、もう一度介護の仕事ができるような支援をしたり、年齢に関わらず元気な高齢者の方は支える側として介護の仕事に参加してもらえようような対策を進めることとしています。

また、介護の仕事はきついというマイナスイメージを無くすため、特別養護老人ホームなどで働く介護士の負担を減らすため、様々な介護ロボットを導入する取り組みに対して支援をするなど、職場環境の改善にも取り組むこととしています。

そのほかにも、介護する職場で働きたくなるような様々な対策を実施することにより、多くの介護士を育成し、不足する人材を確保していきたいと考えているところです。

以上、豊島議員、池田議員、尾前杏音議員からのご質問に対する答弁とさせていただきます。

<町長 水上信宏君 降壇>

○議長 答弁が終わりました。

これで、福祉についての質問を終わります。

次に、教育についての質問を行います。教育について質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<6番 粒来桃子さん、7番 佐々木栞葵さん 登壇>

○議長 最初に、6番、粒来桃子さんの発言を許します。

○6番(粒来桃子君) 議長。

○議長 6番、粒来議員。

○6番(粒来桃子君) 町内の学校の情報提供とPRについて、ご質問いたします。

今、町内の児童生徒数の減少が問題となっています。そのような中で、町外へのPRが大切になってくると思います。しかし、洋野町への転入を考えている人にとって、洋野町のホームページにある学校についての情報は不足していると思います。洋野町のホームページに具体的な施設情報、写真、学校方針をのせることで、過ごしやすい町・地域として町外へのPRにもつながると思いますが、そのことについて、町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、7番、佐々木栞葵さんの発言を許します。

○7番(佐々木栞葵君) 議長。

○議長 7番、佐々木議員。

○7番(佐々木栞葵君) 児童生徒の減少について、ご質問いたします。

近年、洋野町では児童生徒数が減少しています。それは洋野町のよいところが分からないからではないでしょうか。洋野町には日本一の星空観察地や甘くておいしいウニや天然ホヤなど、他に誇れるものがたくさんあります。しかし、町民がそれを知らないのではいくら恵まれた地域とはいえ意味がありません。私たち町民一人一人が洋野町の良さを知り、全国に広めていくことで、洋野町に住みたいと思う人が増えることにより、児童生徒数の増加につながるのではないかと考えますが、町の考えをお聞かせください。

続いて、児童生徒用図書を増冊について、ご質問いたします。

私たちは本が好きです。図書は読む力や語彙力など、社会に出たときに必要な力が身に付くと思っています。しかし、学校の図書室の本はほとんど読んでおり、また、ひばり号による月1回の図書貸し出しがありますが、本の内容が私たちに合いません。私たち、児童生徒が図書に触れる機会を増やしてほしいと思うのですが、児童生徒用図書を増冊について、教育長の考えをお聞かせください。

<6番 粒来桃子さん、7番 佐々木栞葵さん 降壇>

○議長 以上、教育についての、2名の質問に対する答弁を求めます。

○教育長(麦澤正剛君) 議長。

○議長 教育長。

<教育長 麦澤正剛君 登壇>

○教育長(麦澤正剛君) ご質問いただき、ありがとうございました。

最初に、粒来議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の、学校の情報提供とPRについてであります。町内の学校の情報につきましては、現在町のホームページには学校ごとに住所、電話番号、ファックス番号、メールアドレスと校舎の写真を掲載してあります。

情報は最低限のものであり、粒来議員ご指摘のとおり、閲覧者の立場からすると情報は不足していると思います。各学校の特徴的な施設情報、写真、学校方針を掲載することで、町内の学校や教育に対して関心をもってもらえるものと考えます。

学校や教育のよさを発信して、洋野町を過ごしやすい町として町外にPRするよい機会ととらえ、ホームページにおける学校の情報提供について改善を図りたいと思います。

なお、ホームページ情報量の制限や個人情報の管理の関係で、あらゆることをホームページに掲載することができないこととなっております。

学校によっては学校独自にホームページを開設している学校がありますので、リンクを貼るなどして、閲覧できる工夫をしていきたいと考えています。

次に、佐々木議員のご質問にお答え申し上げます。

はじめに、ご質問の、児童生徒の減少についてですが、議員ご質問のとおり、私たち町民一人ひとりが洋野町の良さを知り、全国に広めていく必要があると考えております。

そのため、本町では、小中学校において、海洋教育を推進し、地域に喜びと誇りを持つ児童生徒の育成に取り組んでいるところであります。間もなく完成予定の海洋教育リーフレットに次のような一節を掲載いたしました。

海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用してきた私たち。いろんな体験をとおして見つけた、ちょっと素敵なお気に入りの風景や、洋野ならではの美味しい食べ物、先人の足跡の数々…。そんなふるさとだからこそ、私たち一人ひとりが、ふるさと大使になって、海やふるさとの良さをいろいろな人に伝えること。伝え続けていくこと。とし

ております。

このように、町民一人ひとりが、町の良さを伝え、洋野町に住みたいと思う人を増やし、児童生徒数の増加につなげていきたいと考えております。

次に、ご質問の、児童生徒用図書の増冊についてですが、議員皆さんにはいつも図書館を利用いただき、大変ありがとうございます。感謝いたしております。

ご指摘のとおり、皆さんがたくさんの図書にふれることは、生きて働く国語の力を育むためにとても大切なことと考えており、教育委員会では、毎年度、学校図書館用図書購入費の予算を確保して、学校図書の充実を図っているところであります。

また、移動図書館車ひばり号をはじめ、移動図書館車の内容の充実と増冊については、次の3点が考えられます。

一つ目として、移動図書館の希望図書についての事前連絡、二つ目として、図書館の図書リクエストという制度を活用し、自分たちの読みたい・利用したい図書の購入についてのリクエストする、三つ目として、学級や学年ごとに、図書館本館の団体貸出を利用して、自分たちにあった本を借りることとする、といった方法が考えられます。

種市と大野の両図書館では、これまでも児童図書の整備に力をいれて運営してきたところですが、今後においても、皆さんに愛され、親しまれる図書館を目指して運営するよう努力しますので、よろしく願いいたします。

以上、粒来議員、佐々木議員からのご質問に対する答弁とさせていただきます。よろしく願いします。

<教育長 麦澤正剛 降壇>

○議長 答弁が終わりました。

これで、教育についての質問を終わります。

このあと、議長席を鈴木優副議長と交代します。

議事の進行に、ご協力いただき、ありがとうございました。

ここで、11時20分まで休憩します。

(このとき11時10分)

◎再開

○議長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

(このとき11時20分)

○議長 副議長の種市中学校2年の鈴木優です。

ここからは、私が議長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

引き続き、一般質問を行います。

次に、安心安全についての質問を行います。安心安全について質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<12番 尾前亮太郎君、16番 長根充貴君、19番 小坂七海さん、22番 下田大輔君 登壇>

○議長 最初に、12番、尾前亮太郎君の発言を許します。

○12番(尾前亮太郎君) 議長。

○議長 12番、尾前議員。

○12番(尾前亮太郎君) 児童生徒のための防犯対策について、ご質問いたします。

春が近づくとつれ、日照時間が冬よりは長くなってきましたが、まだ夕方は薄暗く感

じられます。夕方に下校する児童生徒もおり、街灯の設置数が少ない場所では、犯罪に巻き込まれる危険性があります。現在も、不審者に遭遇したときのために、110番の家などの対策がなされていますが、より確実に、犯罪に巻き込まれないために、街灯の設置数や、110番の家を増やす必要性について町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、16番、長根充貴君の発言を許します。

○16番（長根充貴君） 議長。

○議長 16番、長根議員。

○16番（長根充貴君） 火災防止について、ご質問いたします。

冬は乾燥し、火災が起きやすくなっています。消防団は現場に7分以内に着くと知り安心しました。しかし、火災が起きてしまうと、家も、宝物も、思い出もお金もすべてなくなってしまいます。これを防ぐために僕は火元が出ないようにコードやガスをしっかり切っています。このような事を皆心がけていると思います。しかし、これだけでは火災を防ぐことはできないと思います。そして火災の詳しい対処法を知っている人は少ないと思います。

なので、是非、洋野町でやっている取り組みと、火災が起きてしまった時の詳しい対処法をお聞かせください。

○議長 次に、19番、小坂七海さんの発言を許します。

○19番（小坂七海君） 議長。

○議長 19番、小坂議員。

○19番（小坂七海君） 震災の対処について、ご質問させていただきます。

東日本大震災から約5年になりますが、いつ、どのような災害が起きるか分かりません。私たちは、また災害があったとき、すぐに逃げられるように避難訓練に参加するなど、自分の命を守るよう心がけています。そこで私は、災害から命を守るために避難タワーを設けたほうが良いと思っています。また、津波が来たときの危険な所を示すハザードマップがある地域もあると思いますが、どこにあるか分からないという人もいます。避難タワーやハザードマップは災害などから命を守るために大切だと思います。避難タワーなどの避難用施設についてどう思うか、ハザードマップはどこにあるのか、町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、22番、下田大輔君の発言を許します。

○22番（下田大輔君） 議長。

○議長 22番、下田議員。

○22番（下田大輔君） 交通事故の防止について、ご質問いたします。

洋野町では、歩道のせまい地域や、横断歩道・信号機の少ない地域が見られ、普段生活している中でも、ここは危険だと思う所がありました。

また、洋野町は、いわて国体の競技会場にもなっていることから、観光客が増加し事故の危険性が高まることが考えられます。

以上の問題点はすでに改善に向け、取り組んでいると思いますが、今後、事故の危険性が高まるにつれて、必要となる取り組みについて、町の考えをお聞かせください。

<12番 尾前亮太郎君、16番 長根充貴君、19番 小坂七海さん、22番 下田大輔君 降壇>

○議長 以上、安心安全についての、4名の質問に対する答弁を求めます。

○町長（水上信宏君） 議長。

○議長 町長。

＜町長 水上信宏君 登壇＞

○町長（水上信宏君） 町民の安全安心のために、それぞれの立場で大変大切な質問、提言をいただき、ありがとうございます。

先ず、尾前亮太郎議員のご質問にお答えさせていただきます。

ご質問の、児童生徒のための防犯対策についての中で、街灯については町内各地区において管理し、設置のときの経費の一部を町から各地区に対し補助することによって、少しずつではありますが、設置数を増やしています。

議員ご質問のとおり、街灯の設置数が少ない場所では、犯罪に巻き込まれる危険性が高いことから、今後も各地区と情報を共有して街灯の設置を進めたいと思っています。

次に、110番の家は、平成9年頃に警察が主体となって設置を進め、現在は通信ネットワークの普及によって、警察と教育委員会が不審者情報や災害情報等をすばやく情報共有し、必要に応じて教育委員会や学校から保護者等へ一斉にメール配信するなどの新たな防犯対策に取り組んでいることから、新たに、110番の家は設置していないとのことですが、110番の家のように地域住民が一体となって児童生徒の安全を守る体制を維持し、防犯対策に取り組むことは、大変重要であると考えます。

今後も児童生徒の皆さんから、危険だと思う場所や、こうしてほしい等の意見をどんどん教えていただきたいと思えます。

次に、長根議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、火災防止についてですが、平成27年度版消防白書によります全国の火災原因別にみると、放火が最も多く、次いで、たばこ、コンロ、放火の疑いとなっています。建物火災では、コンロによるものが最も多く、次いで、タバコ、放火、ストーブの順になっています。

また、本町における平成24年から平成26年に発生した火災件数は30件であり、ゴミ焼き等の火の不始末による火災が多く発生している状況にあります。

ご質問の第1点目の、火災を防ぐ取り組みについてですが、町では、消防団員並びに婦人消防協力隊員が春と秋に家庭への火災予防点検を行って、火災への注意喚起や火の取扱いに関するチラシの配布を実施している他、消防車輛を使用して、防火パレードや山火事防止パトロール・お盆や年末年始におけるパトロールを実施しています。

ご質問の第2点目の、今後、完全に火災を防ぐには何が必要かについてですが、火災を完全に防ぐことは困難なことです。火災原因につきましては、火の不始末が原因で発生することが多いことから、住民一人一人が火の取扱いに責任を持つことが大切であると考えています。そのことから、小さいころから防火意識を高めることが必要であり、幼少年消防クラブの育成に努め、将来の消防団並びに婦人消防協力隊を担う人材を育て、防火意識の高い住民を増やすことにより、火災ゼロを目指す必要があると考えています。

次に、小坂議員のご質問にお答え申し上げます。

小坂議員のご質問のとおり、災害はいつ発生するか分からないところであり、自らの命は自らで守り、日頃から、災害が発生しやすい危険箇所等や避難経路を確認しておくことが大切であると考えています。

ご質問の、ハザードマップや避難タワーのような施設が必要だと思うについてですが、町では平成25年度に、海面からの高さである海拔表示を5m毎に色分けし、明治三陸津波、昭和三陸津波及び東日本大震災津波の浸水エリアや避難施設を示した津波浸水マップを作成し、中野地区から角浜地区の沿岸全世帯に配布しているほか、平成26年度には

各小中学校を含めて、町の全公共施設等に配布し、掲示を依頼いたしました。

避難タワーについてですが、本町の地理的条件や県の津波シミュレーションでは、想定される宮城県沖連動地震発生から岩手県に津波が到達する想定時間は最短で24分と想定されていることなどから、避難タワーによる避難ではなく、迅速に高台に避難することが可能であり、より安全であると考えています。

各学校には津波浸水マップの他、土砂災害警戒区域のマップを配布し掲示していただいていることから、災害が発生しやすい場所等を把握し、避難場所や避難経路などを家族で話し合うなどして、安全に避難できるよう日頃から備えることが大切であると考えています。

次に、下田議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、交通事故の防止についてですが、町では、普段から警察や関係機関と連携して、季節に応じた交通安全運動や高齢者の交通事故防止運動などの交通安全対策に取り組んでいます。

いわて国体の開催により観光客が増加することは、町としてたいへん喜ばしいことですが、交通量の増加に伴って交通事故の危険性が高まり、また観光客が不慣れな道や景色に見とれて事故に遭うことも予想されます。

そのような中、交通事故の防止を図るためには、町民一人ひとりが交通安全に対する意識を高め、それぞれが安全運転や事故防止に心がけ、実践することにより、地域全体における交通安全の推進が図れるものと考えます。

このことから、今後も町民への交通事故防止の啓発活動を継続していくことが、地域住民及び洋野町を訪れた方々を交通事故から守るための重要な取り組みと考えています。

なお、道路の拡張や横断歩道・信号機の設置は、必要に応じて検討し、関係機関にも要望していきたいと思います。

以上、尾前亮太郎議員、長根議員、小坂議員、下田議員からのご質問に対する答弁とさせていただきます。

<町長 水上信宏君 降壇>

○議長 答弁が終わりました。

これで、安心安全についての質問を終わります。

次に、まちづくりについての質問を行います。まちづくりについて質問する議員の皆さんは、登壇願います。

<3番 福島真依さん、5番 船渡茜さん、13番 谷地中凜生君、20番 太内田妃夏さん 登壇>

○議長 最初に、3番、福島真依さんの発言を許します。

○3番(福島真依君) 議長。

○議長 3番、福島議員。

○3番(福島真依君) 更なるイベントの広報について、ご質問いたします。

洋野町には、毎年8月に行われている北奥羽ナニャドヤラ大会をはじめ、県外からも参加者が訪れるさまざまなイベントがあります。私もいろいろなイベントを楽しんでいますが、更に多くの人たちにイベントを知ってもらい、洋野町を訪れてもらいたいと思います。そのために、インターネット等を活用して、町内だけでなく県内外の多くの人にイベントについて知ってもらうといいと思いますが、これについて町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、5番、船渡茜さんの発言を許します。

○5番（松渡茜君） 議長。

○議長 5番、松渡議員。

○5番（松渡茜君） 観光スポットの充実について、ご質問いたします。

洋野町には漁業や酪農など、たくさんの産業があります。そのような産業を生かして、洋野町のことをたくさん知ってもらい、洋野町のことを好きになれるような観光スポットが必要だと思います。例えば、ウニとり体験や乳しぼり体験などが考えられます。観光スポットが増えれば、観光客や働く場所も増えて、人口の増加にもつながると思います。そこで、町内の体験型観光スポットを充実させることについて、町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、13番、谷地中凜生君の発言を許します。

○13番（谷地中凜生君） 議長。

○議長 13番、谷地中議員。

○13番（谷地中凜生君） 公園やスポーツができる場所について、ご質問いたします。

洋野町には、公園などのみんなが遊べる場所やスポーツができる場所がいくつかありますが、例えば種市体育館はクラブ活動などの予約があると使えないですし、子どもが気軽に行ける公園のような場所も少ないです。私が住んでいる角浜にも公園がありません。もっと近くに気軽に遊べる場所やスポーツができる場所があるといいと思います。町内に公園やスポーツができる場所を増やす計画はあるのか、町の考えをお聞かせください。

○議長 次に、20番、太内田妃夏さんの発言を許します。

○20番（太内田妃夏君） 議長。

○議長 20番、太内田議員。

○20番（太内田妃夏君） 人口減少対策について、ご質問いたします。

現在の洋野町では人口の減少が課題となっていると聞きました。人口の減少は、若い人たちの働く場所が少なく、洋野町にとどまり仕事をするのが難しいと思っていることが原因の一つだと思われます。

将来、地元で働き洋野町を発展させたいという人も私の学校にはたくさんいます。そういう人たちのために、働く場所を作り出すことで洋野町に住む人たちが増えていくのではないかと考えますが、町の考えをお聞かせください。

<3番 福島真依さん、5番 松渡茜さん、13番 谷地中凜生君、20番 太内田妃夏さん 降壇>

○議長 以上、まちづくりについての、4名の質問に対する答弁を求めます。

○町長（水上信宏君） 議長。

○議長 町長。

<町長 水上信宏君 登壇>

○町長（水上信宏君） まちづくりについて、それぞれ4人の議員から大変大切な質問、大事な質問等いただきましたことに感謝申し上げ、福島議員のご質問からお答え申し述べさせていただきます。

ご質問の、更なるイベントの広報についてですが、町では、地域活性化を図るため各種団体等と実行委員会を組織し、おおのキャンパス一人一芸交流祭、久慈平岳山開き、たねいちウニまつり、種市夏まつり、北奥羽ナニャドヤラ大会などのイベントを開催しています。

特にも、伝統文化の継承・発展と、北奥羽地域間のひと・もの・文化の交流を目的に

開催している北奥羽ナニャドヤラ大会は、平成27年度で26回目となり、33団体、1,000人を超える踊り手が参加し、来場者数は8,000人を超える北奥羽地域を代表するイベントに発展してきました。

北奥羽ナニャドヤラ大会の開催にあたっては、チラシの町内の各家への配布や近隣市町村への新聞折込み、広告掲載、高速道路のサービスエリアやパーキングエリア、県内外の公共施設等へのポスター掲示、町のホームページへの掲載などにより大会を町内外にPRしているほか、今年度からツイッターで開催の状況を随時お知らせするなどの新たな取り組みを始めています。

伝統文化であるナニャドヤラを継承・発展させていくためには、この大会を更に盛り上げていく必要があります、これまで以上にPRしていきたいと考えています。

特に若い方へのPRは、地域の活性化とナニャドヤラを若い方々につないでいくうえでも欠かすことができません。

このため、これまでの取り組みに加え、インターネットのフェイスブックの活用や、洋野エモーションなど町の様々な情報を発信していくことにより、より多くの方から洋野町に足を運んでもらえるよう、さらに取り組みを強化していきたいと考えています。

次に、船渡議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、町内の体験型観光スポットを充実させることについてですが、洋野町には、地球の成り立ちを学び、楽しむことのできる大地の公園、三陸ジオパークのジオサイトに認定されている種市海浜公園や大野海成段丘のほか、洋野町を含む青森県八戸市から福島県相馬市までの海岸線を歩いて旅することにより、車の旅では見えない風景や歴史、食文化などの奥深さを知り、体感することができる、みちのく潮風トレイルのルートが設定されており、昨年は全長約27キロメートルの洋野町のルートに加え、大野海成段丘などの見学もコースに取り入れたウォーキングイベントを開催しています。

また、洋野町の特色でもある海と高原を活用したグリーン・ブルーツーリズム等の推進に取り組んでおり、首都圏等の中高生などの教育旅行や地元小学生を対象に民泊を行う、ヒーローの旅などの事業を行っています。

夏には、マリンスポーツを体験できる種市B&G海洋センターでのヨット・カヌー体験や、品質日本一を自負するウニの殻割り体験、生ウニ井づくり体験などにより、洋野町の特産品のPRを行っているほか、高原での体験として、おおのキャンパスを中心に、大野ふるさと公社が実施している手づくりアイス体験や、牛の乳搾りなどの酪農体験、ホウレン草やシイタケなどの野菜の種まき、収穫体験など、他にもサーフィンやパークゴルフなど約20種類の体験プログラムがあります。

これらの観光資源を有効に活用していくことが重要であると考えていることから、観光パンフレットや町のホームページなどで情報発信に努めています。

また、本年は、希望郷いわて国体が開催されることとなっており、観光客等に誰もが洋野町の良さを伝えることができることを目的に、ひろのふるさとマイスター検定を実施し、観光資源をPRするだけでなく、町民ひとりひとりが、おもてなしの心を持って観光客等をお迎えできるように新たな事業に取り組んでいます。

これからも、行ってみたい洋野町、泊まってみたい洋野町、味わってみたい洋野町を目指し、情報発信や町の特色を活かしたイベントなどを開催していきたいと考えています。

次に、谷地中議員のご質問にお答えします。

ご質問の、公園やスポーツができる場所についてですが、洋野町内には、種市海浜公

園や大和の丘森林公園、農村公園など15の公園があり、小さい子どもさんから高齢の方まで、多くの町民の方に憩いの場、交流の場として利用されています。

また、町のスポーツ施設は、体育館や野球場、温水プールなど全部で12カ所あり、どれもが気軽にスポーツに取り組むことができるよう管理しています。

議員ご質問のとおり、町内には、子どもが気軽に行ける身近な公園やスポーツができるような場所が少ないですが、新しく公園やスポーツ施設をつくるためには、用地の購入や整備工事にかかる費用、さらには、施設を守っていくための電気料や人件費などたくさんのお金が必要になりますし、少子高齢化や人口減少など将来のまちづくりを考えていく中で、すぐに実現するというのは難しい状況ですが、町全体のバランスを考えながら検討していきたいと思えます。

また、学校の放課後や休みの日には、学校開放事業により運動場や校庭が使用できるようになっていますので、一人ひとりがルールを守り、安全面に気をつけながらご利用いただきたいと思えます。

町では、今後も、皆さんが伸び伸びと元気に楽しく遊べるよう、アイデアをいただきながら安心・安全な環境づくりを進めていきたいと考えております。

次に、太内田議員のご質問にお答え申し上げます。

ご質問の、人口減少対策についてですが、本町の人口は、国の研究所がだした予測では、今から25年後の平成52年には7,500人ほど減少して10,272人になると見込まれています。

町では、人口減少対策を進めるため、昨年12月に町の人口状況などを分析した、洋野町人口ビジョンと、その分析結果をもとに人口を減らさないようにするための計画となる、洋野町まち・ひと・しごと創生総合戦略を作りました。

人口ビジョンから本町の人口減少の要因は、生まれてくる人と亡くなる人による人口の増減よりも、町に入ってくる人と町から出ていく人による人口の増減の影響が大きく、特に、高校卒業後の就職や大学などへの進学のと時期と大学卒業後の就職のと時期に、かなりの若い人たちが町から出ていっていることが分かりました。

このような分析結果から、町の総合戦略では、町が目指すべき将来の方向として、若い人たちを中心とした働く場を創ること、たくさんの人たちとの交流により人を呼び込むこと、若い人たちが結婚・出産・子育てしやすい環境をつくること、みんなが楽しく暮らせる地域をつくることの4つの方針に沿って取り組んでいくこととしています。

太内田議員が考える、働く場所を作り出すことで洋野町に住む人たちが増えていくのではないかについては、このうちの若い人たちを中心とした働く場を創ることの部分になり、同じ考えです。

町では、働く場を創るために、町の基幹産業である第1次産業の後継者や新たに始めようとする人を支援していくこと、農林水産物のブランド化と6次産業化を進め、所得と働く場を増やしていくこと、新たな仕事を始めようとする若い人たちを支援していくこと、これから増えていくことが予想される医療・福祉・介護などの分野で働く場を確保していくこと、再生可能エネルギー事業の誘致などにより新たな働く場を創り出すこと、久慈市や八戸市周辺の市町村と連携して、広域的な範囲で働く場を創り出すことなどに取り組んでいきます。

たくさん若い人たちが洋野町で働ける場をつくり、人口を少しでも減らさないよう頑張っていきたいと考えていますので、皆さんもぜひご協力をお願いします。

以上、福島議員、船渡議員、谷地中議員、太内田議員からのご質問に対する答弁とさ

させていただきます。ありがとうございました。

＜町長 水上信宏君 降壇＞

○議長 答弁が終わりました。

これで、まちづくりについての質問を終わります。

以上で、一般質問を終わります。

◎日程第4 議案第1号 洋野町いじめ防止基本方針

○議長 次に、日程第4、議案第1号、洋野町いじめ防止基本方針の件を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。

○教育長（麦澤正剛君） 議長。

○議長 教育長。

＜教育長 麦澤正剛君 登壇＞

○教育長（麦澤正剛君） 議案第1号、洋野町いじめ防止基本方針について、提案理由の説明をいたします。

本方針案は、国のいじめ防止対策推進法の趣旨を踏まえ、いじめへの対処のための対策に関し、基本理念及び基本となる事項を定め町民一丸となっていじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進することを目的として、方針を定めようとするものでありますので、よろしくお願い申し上げます。

＜教育長 麦澤正剛君 降壇＞

○議長 詳細説明を求めます。

○総務学校課長（昆勝雄君） 議長。

○議長 総務学校課長。

＜総務学校課長 昆勝雄君 登壇＞

○総務学校課長（昆勝雄君） 議案第1号、洋野町いじめ防止基本方針について、詳細説明をいたします。

本方針案につきましては、あらかじめ各議員にお示ししておりましたことから、要点について説明いたします。

初めに、この方針案では、学校だけではなく町全体でいじめの防止等の取り組みを進めていくことを目指し、全ての子どもが自分の夢の実現に向かってさまざまな活動に自律的に取り組むことができることを方針の柱としております。

いじめの定義について、ご説明いたします。

いじめ防止対策推進法第2条に示されたいじめの定義を、本町でもいじめの定義といたします。

いじめ防止のための取り組みとしては、いじめは身のまわりの普通の場所にもかかっている。

いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうるものという認識に立ち、次の取り組みを推進します。

まず、子どもたちについては、平成18年作成の洋野町中学生いじめ追放5か条。

1つ、いじめは犯罪だと自覚する。

1つ、みんなとコミュニケーションをとる。

1つ、相手の気持ちを考える。

1つ、自分を見直す。

1つ、見て見ぬふりをしない。

をもとに、いじめを許さない風土づくりを進めます。

次に、学校では、いじめは大人には見えにくく発見することが難しいという特性を踏まえ、まず各学校の学校いじめ防止基本方針の策定。

次に、全職員による組織的な対応、最後に定期的なアンケート、教育相談の実施といった取り組みを推進して参ります。

更に、保護者については、子どもの第一の理解者という立場に立ち、子どもとの信頼関係を築くことを目指すものであります。

そして、地域、教育委員会、町の役割を明記するとともに、重大事態が発生した場合を明記いたしました。

以上、詳細説明といたしますので、よろしく願いいたします。

<総務学校課長 昆勝雄君 降壇>

○議長 これから、質疑を行います。

<「なし」と発言する人あり>

○議長 質疑なしと認めます。

これから、討論を行います。

○2番(豊島遼太郎君) 議長、2番、豊島遼太郎です。

○議長 豊島議員。

○2番(豊島遼太郎君) 洋野町いじめ防止基本方針について、賛成の立場から申し上げます。洋野町中学生いじめ追放5か条のなかに、見て見ぬふりをしないの言葉があります。本校でも2学年では、善悪の判断をするを学年方針に掲げています。これは、洋野町中学生いじめ追放5か条につながるものと考えます。

このことから、この方針に賛成し、私たちは善悪の判断をしっかりとし、いじめのない町を作っていきたいと思えます。

以上、賛成討論といたします。

○議長 ほかに討論はありませんか。

○7番(佐々木栞葵君) 議長、7番、佐々木栞葵です。

○議長 佐々木議員。

○7番(佐々木栞葵君) 洋野町いじめ防止基本方針について、賛成の立場から申し上げます。洋野町いじめ防止基本方針の中に、2.いじめ防止のために、(2)学校ではの③にある、定期的なアンケートの実施とあります。私自身、学校で行われたこのようなアンケートのおかげで心が楽になった経験があります。私と同じように、自分の気持ちのもやもやを、学校で行うアンケートに書くことで、心が楽になる人が他にもたくさんいるのではないかと考えます。なので、各学校では、定期的なアンケートの実施をこれからも続けてほしいと思えます。

以上、賛成討論といたします。

○議長 ほかに討論はありませんか。

○13番(谷地中凜生君) 議長、13番、谷地中凜生です。

○議長 谷地中議員。

○13番(谷地中凜生君) 洋野町いじめ防止基本方針について、賛成の立場から申し上げます。私も、洋野町いじめ防止基本方針の内容に賛成し、いじめのない学校作りに取り組んでいきたいと考えています。

また、角浜小学校では、いじめ防止にかかわる取組をしていますので紹介します。本校では、良い言葉集めという取組をしています。これは、自分が言われてうれしかった

ことを紙に書いて箱に入れ、集まった言葉を給食の時間に全校の前で発表するものです。みんながあっただかい気持ちになる良い活動だと思っています。この活動をつづけ、いじめのない学校を作っていきたいと思います。以上、賛成討論といたします。

○議長 ほかに討論はありませんか。

○20番（太内田妃夏君） 議長、20番、太内田妃夏です。

○議長 太内田議員。

○20番（太内田妃夏君） 洋野町いじめ防止基本方針について、賛成の立場から申し上げます。いじめは、身の回りでいつでも起こり得るものです。なので、一人一人がいじめを意識し、いじめを防止することが必要だと思っています。私は、この方針に賛成し、だれもが周りに目を配り、気付かないうちに加害者や被害者にならないように、これからの生活を過ごしていきたいと思っています。また、洋野町いじめ防止基本方針にある、中学生いじめ追放5か条の中に、見て見ぬふりをしないという一文があります。これは、本当に大事なことだと思っています。いじめを見過ごすことは、いじめている人と同じくらい大きな罪だからです。

私は、この5か条に賛成し、一人一人がこの方針を意識することで自分の行動や言動に責任をもてるいじめのない学校をめざしていきます。

以上、賛成討論といたします。

○議長 ほかに討論はありませんか。

○22番（下田大輔君） 議長、22番、下田大輔です。

○議長 下田議員。

○22番（下田大輔君） 洋野町いじめ防止基本方針について、賛成の立場から申し上げます。いじめは、身のまわりの、普通の場所にもかかれています。とありますが、近年は、情報機器が発達し、相手の顔や表情を見ながら会話する機会が減り、文章や声のみで会話することが大幅に増えてきたように感じます。文章や声だけで会話をすると自分が思っていることが相手に伝わりにくく、自分も気付かぬうちに、相手に不快な思いをさせ、それがいじめにつながっていくようなこともあると思います。

そのようなことも踏まえ、この方針に賛成し、自分たちも日頃から相手の気持ちも考えながら行動していくようにしていきたいと思っています。また、洋野町いじめ防止基本方針にある、洋野町中学生いじめ追放5か条のなかに、みんなとコミュニケーションをとるという言葉があります。これは、いじめのある学校、ない学校にかかわらず、より良い雰囲気为学校づくりをしていくためにとても大切なことです。また、情報機器などの発達により、現実で相手の顔を見て話すことをおろそかにしてしまいがちな今の学生に必要なだと思いました。私たちの学校でも改めて一人一人がいじめについて考え、絶対にいじめの起きない学校そして街づくりに取り組んでいきたいと思っています。

以上、賛成討論といたします。

○議長 ほかに討論はありませんか。

<「なし」と発言する人あり>

○議長 これで討論を終わります。

これから、議案第1号を採決します。

この採決は、起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は、起立願います。

< 起立 多数 >

○議長 起立多数であります。

したがって、議案第1号、洋野町いじめ防止基本方針の件は、原案のとおり可決されました。

○議長 ここで、麦澤教育長から、ごあいさつをいただきます。

○教育長（麦澤正剛君） 議長。

○議長 教育長。

＜教育長 麦澤正剛君 登壇＞

○教育長（麦澤正剛君） 本日は、町内各小中学校及び種市高等学校から21名の児童生徒の皆さんに参加していただき、初めての子ども議会を開催することができました。

保護者の皆様をはじめ、校長先生方、多くの関係者の方々に傍聴をいただきまして、厳粛に開催できましたことに対しまして心から御礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

さて、子ども議員の皆さんには、洋野町の未来を創造し、その実現に向けて各自が考え、各部門に分かれて話し合いが行われたところであります。

本日は、それらについて一般質問ということで、それぞれが登壇して発表していただきました。

これからの洋野町を深く真剣に考えていただきましたことに感謝いたします。

皆さんが本日の議会で提案していただきました産業をはじめとする各部門についての意見につきましては、町長の答弁にありましたように、本町の施策を進めるうえで、非常に参考となるものが多くございました。

皆さんには、この経験を活かして、それぞれの学校で、あるいは地域において、一層活躍されることを心よりお願いするところであります。

最後に、本日、傍聴にお越しいただきました保護者及び関係者の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後におきましても、洋野町の未来を担う子どもたちの、生きる力、自らを律し、協調しながら、その将来を切り拓いていく力の育成のために、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。子ども議会の閉会のあいさつとさせていただきます。大変ありがとうございました。

＜教育長 麦澤正剛君 降壇＞

○議長 ありがとうございました。

以上をもって、本日の日程は全部終了しました。

◎閉 会

○議長 閉会にあたり、ひとこと、ごあいさつを申し上げます。

本日の子ども議会は、私たちにとって、洋野町の将来を考えるととても良い機会になりました。

町の行政は、町民に直接関わる大切な職務であり、町長さんや職員の皆さんが、私たち町民のために、広く深く考えをめぐらし、一生懸命努力していることを知ることができました。

また、町議会議員の役割の大きさや大切さも、理解することができたと思っています。

私たち子ども議員は、きょうの子ども議会の経験を活かし、大人になっても、それぞれの立場で、洋野町のために少しでも役立つように、がんばっていきたいと思いますので、町当局も町議会も、洋野町がもっともっと発展するよう、努力を継続していってください。

終わりに、円滑な議事進行へのご協力に感謝いたしますとともに、お忙しい中、ご出

席いただいた水上町長さんはじめ職員の皆さん、並びに、岡本町議会議長さんに、改めて、心からお礼を申し上げまして、閉会にあたってのごあいさつとさせていただきます。会議を閉じます。

これをもって、洋野町誕生10周年記念事業洋野町子ども議会を閉会します。

大変ご苦労様でした。

(このとき12時12分)